

一般質問



議席 3 番
枝 史子 議員

HPVワクチンと子宮 頸がん検診について

問 国が現在小6～高1相当の女子に対して接種勧奨しているHPVワクチンは、副反応報告が他の定期接種ワクチンと比べて明らかに多い。そのため、対象者が接種するか否かを納得して決めるためには、「有効性」「リスク」双方の情報が必須と考える。これについて当町は、どのような情報提供を行っているのかを問う。

答 HPVワクチンは、子宮頸がんの予防効果が期待される一方で、副反応について不安の声もあることから、接種に当たっては、効果とリスクの双方を正しく理解した上で、本人や保護者が納得して判断できることが重要であると考えております。

そのため当町では、接種を一方向的に勧奨するのではなく、また不安を過度に強調するのでもなく、国が示す最新の知見に基づき、予防効果、副反応、発生頻度、健康被害救済制度などについて、正確かつ分かりやすい情報を提供しております。

現在、対象者へ発送している個別通知にも、ワクチンの有効性や副反応、健康被害救済制度などを掲載し、必要な情報を十分にお伝えした上で、それぞれのご家庭において適切に判断いただけるよう努めております。（町長・町民生活部長）

問 厚労省は「HPVワクチンと接種者も子宮頸がん検診が必要」とすすめている。子宮頸がん検診の受診率向上のために当町では、どのような取り組みをしているのかを問う。

答 子宮頸がん検診については、保健センターで行う集団検診と医療機関で行う個別検診を実施しており、受診機会の確保に努めております。また、20歳の女性を対象に、無料で検診が受けられる「がん検診総合支援事業」を実施しております。

（町民生活部長）



議席10番
田山 文雄 議員

脱炭素社会の取 組みについて

問 SAFの原料となる使用済み食用油を回収して供給体制を推進している自治体もあるが、当町における考えを伺いたい。

答 2050年ゼロカーボンシティ実現に向け、脱炭素と資源循環を同時に進める有効な取り組みと認識しております。現在、学校給食センターから出る廃食油は専門業者に買い取りしていただいております。

継続的な運営体制の構築に向けて課題を整理し、県内先進事例を参考にしながら、家庭系廃食油の回収方法等について調査研究を進めてまいります。（政策統括部長・危機管理部長・学校給食センター長）

SAF(Sustainable Aviation Fuel) 持続可能な航空燃料

SAFとは、「持続可能なクライテリアを、満たす、再生可能又は廃棄物を原料とするジェット燃料」

空き家対策について

問 当町における空き家の現状と対策についての考えを伺いたい。

答 令和5年度の調査では町内の空き家は319件で、前回比で114件減少しております。これまで町では、寄付を受けた空き家を更地にし、子育て世帯向け賃貸住宅へ建て替えたり、進出企業で働く外国人材の住居に利活用したりしてまいりました。

また、空き家に係る固定資産税が滞納されている場合には、滞納処分による差し押さえや公売に向けた手続きを進めてまいります。

今後は所有者の「売りたい、貸したい」というニーズをすくい上げるため、民間の不動産業者と相談・連携しながら「空き家バンク」等の仕組みを検討してまいります。（町長・政策統括部長）